

府立住之江支援学校



テーマ: 子どもの主体性を育む授業づくり

概要

「アクティブ住之江」を目標に

児童・生徒一人ひとりの自立と社会参加を実現するため、児童・生徒の人権を尊重し、それぞれの教育的ニーズに適切に対応した教育・支援を行うことを基本として、社会生活に活かせる「知識・技能」の習得、自己決定や自己判断の基礎となる「思考力・判断力・表現力等」の育成、生きる喜びにつながる「学び向かう力・人間性等」の涵養を行う「児童・生徒一人ひとりを成長させる学校」をめざします。

実施スケジュール

Research

6月17日(月)

校長、教頭、研究部、担当指導主事と、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

9月12日(木)

全体会

テーマ「子どもの主体性を育む授業づくり」

Plan

11月上旬～1月中旬

事前に授業を参観・授業者と打ち合わせ、また指導案検討会を実施

Do

12月12日(木)

研究授業・研究協議(1) 小学部: 国語

12月20日(金)

研究授業・研究協議(2) 中学部: 体育

1月21日(火)

研究授業・研究協議(3) 高等部: 職業

Check & Act

2月中旬

アンケート集約

全体会

9月12日(木) 「子どもの主体性を育む授業づくり」

支援教育推進室指導主事より



授業改善のための視点について

視点	改善の方向性
主体的学び	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
対話的学び	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
ICT活用	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

子どもたちが取の多く協同の変化について

今の子どもたち、これから誕生する子どもたちが成人して社会で活躍する頃の社会とは？

- 2045年には人工知能が人類を超える？
- 子どもたちの68%は従来、今は存在していない職業に就く？
- 今後10年から20年程度で半數近くの仕事が自動化される？

支援学校の子どもの進路は？

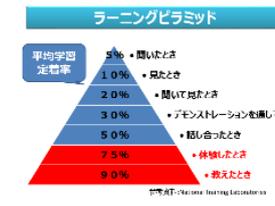
日常生活の中で、課題を解決するという場面では

日常生活の中で、人が課題に出遭ったとき...

学習指導要領の改訂に向けて

2030年の社会を見据えた改訂とは？

教育の将来像を描くに当たって一つの目標となる2030年の社会の在り方を示しながら、その先も見通した初等中等教育の在り方を示し、日本の子供たちの学びを支えるとともに、世界の子供たちの学びを後押しするものとするのが、今回の改訂に課せられた使命である。



キーワード④ 育成型を定着させる能力

育成型を定着させる能力

- 「育成型」を実現しているか、育成型であるか(基本・基礎・実践・応用)
- 「育成型」を実現しているか、育成型であるか(基礎・実践・応用)
- 「育成型」を実現しているか、育成型であるか(基礎・実践・応用)

評価の二つの観点

- ① 知識・技能
- ② 思考・判断・表現
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

学習到達目標

- ① 知識・技能
- ② 思考・判断・表現
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

学力の三要素

- ① 知識・技能
- ② 思考・判断・表現
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 目標やねらいの設定の改善
- 全体計画の改善 (単元・題材等)
- 実際の授業場面の改善 (学習内容・学習活動・指導方法・T-Tの機能強化等)
- 学習評価の改善

評価の二つの観点

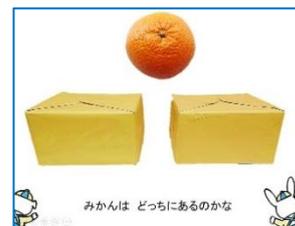
- ① 知識・技能
- ② 思考・判断・表現
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善とは、単元や題材などの内容や時間のまとまりをどのように構成するのかを考えること、また、特に子どもの思考に合わせ、見通しを持って取り組ませることや学習活動の振り返り、次につなげることができる授業展開の工夫をどのように進めるのかについて共有しました。

(資料は抜粋)

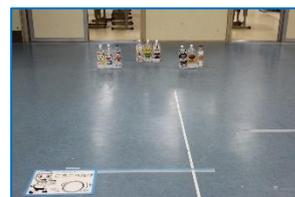
研究授業(1)

学年・教科： 小学部 2年 「国語」
 単元名： 「同じものを見つけよう!」
 教材名：「おんなじおんなじ」
 研究協議のポイント 「身近な言葉にふれ、興味関心を引き主体性を育む」
 言葉に興味を持ち始めた児童に実際の具体物と言葉のマッチングをどのような興味づけで行っていくのか、また、自分の活動の様子を動画で振り返り、他者に評価してもらうことによる自己肯定感向上の場面の重要性などについて、協議しました。



研究授業(2)

学年・教科： 中学部 C 班 「体育」
 単元名： 「体づくり運動(投運動)」
 研究協議のポイント 「個々の能力に応じた、主体的なゲームの楽しみ方」
 体づくり運動(投運動)に関する単元について、豊かなスポーツライフを実現するという視点で、内容や構成を協議しました。また、生徒の実態を把握し、基礎技能を高めること、簡単なルールの理解をどのように身に付けさせるかを中心に、協議しました。



研究授業(3)

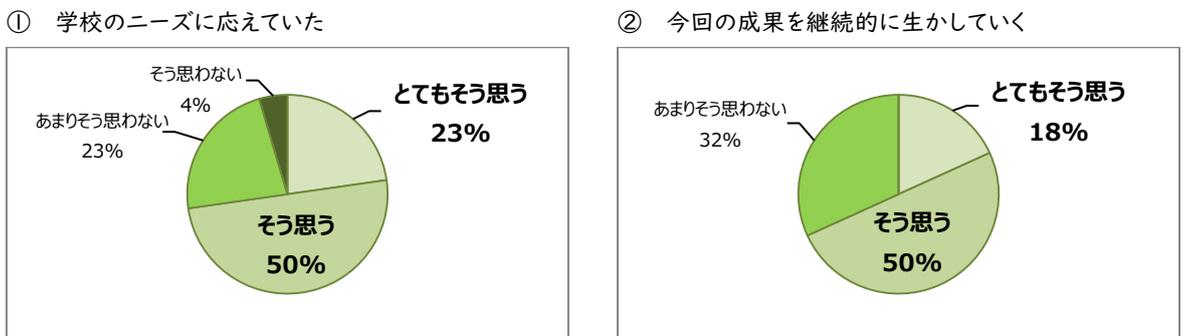
学年・教科： 高等部 3年 「職業」
 単元名： 「カフェ実習」～すみの笑喫茶～
 研究協議のポイント 「コミュニケーション能力の育成をキャリア形成に」
 将来、就労をめざすコースに在籍する生徒に対するカフェ実習の授業について、めざすべき方向性などを確認するとともに、実際にどのような力が必要とされるのかという点から、「コミュニケーション能力の育成」にフォーカスし、協議しました。



成果

主体性を引き出すためには、児童生徒の実態把握、適切な課題設定、興味関心を引く題材設定、そして、何より子ども自身に「なぜ?」「なに?」と疑問を感じさせることが大切です。そこで、住之江支援学校では、「アクティブラーナーを支える支援アイデア チェックリスト」を活用して自らの授業を振り返ったり、学習の展開において「主体的・対話的で深い学び」の視点のどの部分に力を入れたのかを自らが整理し、意識できるよう工夫された「授業研究シート」を活用したりと、様々な取組みを行ってきました。その成果として、それぞれの授業づくりにおいて、「子どもの主体性を育むことが重要」であることを再確認するとともに、授業改善の大切さを共有できる良い機会となりました。

アンケート結果



(感想より)

- 今回の取組みの中で、各自の授業において、シートの活用などにより、重点的に指導するところをより明確にするきっかけになった。
- 学部の中であっても、コース制などに対する考えが違う教員がいるように、研修などにより方向性を統一する必要がある。しかし、小・中・高等部と連携した授業づくり向上への課題について意識を高めることができたのは、よい機会であった。
- 指導案検討については、時間をかけ過ぎているように感じた。授業や指導案を見て、指摘する簡潔な形式の方がよいと思う。